

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume **25** 2015.12

西南学院大学



歌川(五雲亭)貞秀画「肥前崎陽玉浦風景之図」
[西南学院大学博物館所蔵]

特集 歌川(五雲亭)貞秀画 「肥前崎陽玉浦風景之図」

- 聖書植物園紹介 ② 聖書植物園が維持できる理由
- 特別展紹介 2015年度秋季特別展「南蛮-NAMBAN-昇華した芸術」展
- 所蔵品紹介 歌川(五雲亭)貞秀画「肥前崎陽玉浦風景之図」
- 大学博物館紹介 ②④ 明治大学博物館

SEINAN GAKUIN
1920



SEINAN GAKUIN
1920

聖書植物園紹介 ②

聖書植物園が維持できる理由



前回ご紹介した通り、大学キャンパス内に聖書植物園を設置する試みは全国的に見ても非常に珍しく、それゆえに国内外のミッション系大学から視察に来ることもあります。しかしながら、その多くは本学植物園の様にうまく植物を定着させることができなかったそうです。ではなぜ、本学では聖書植物園を維持できているのでしょうか。

その大きな理由は、福岡とイスラエルの位置関係にあります。聖書に登場する植物は、主にイスラエルに自生しています。実は、エルサレムの緯度(北緯31°)はちょうど日本の宮崎県に位置しているため、環境の似ている福岡でもエルサレムと同じように植物を生育・定着させることができるのです。

もちろん、中には育成しづらい植物もあるのですが、植物園を管理している方々による日々の絶え間ない管理によって維持



されています。福岡という環境と、携わる人々の熱意によって今日も聖書植物園を守ることができています。

学芸調査員 阿部 大地

聖書植物園 HP <http://www.seinan-gu.ac.jp/shokubutsu/>

【大学博物館紹介 ②4】

明治大学博物館

明治大学博物館は2004年に3つの独立した博物館—商品博物館・刑事博物館・考古学博物館が統合され、現在の博物館になりました。常設展はこれら3つと大学史部門の計4部門に分かれています。



大学史部門は明治大学が今日に至るまでの多くの資料を歴史とともに展示しており、明治大学史資料センターが運営しています。商品部門は主に文具や漆器、染織類などの伝統工芸品の収集・展示を行っています。刑事部門は珍しいテーマの展示で、西欧や日本の様々な拷問具・処刑具が展示されています。日本ではなかなか見ることのできないニュルンベルクの鉄の処女やギロチンなどもあり、法や人権抑圧の歴史について学ぶことができます。考古部門は旧石器時代～古墳時代を主に展示しており、特に群馬県岩宿遺跡出土の石器など旧石器時代や縄文時代の資料が充実しています。

企画展・特別展も合わせて年に5,6回ほど行っており、常に違った表情を楽しめるのも魅力です。また、教育の面でも市民向けの講座の開講や、博物館学芸員資格習得のための実習生の受け入れなど様々な活動を行っています。

さらに館内には博物館図書室やミュージアムショップも併設されており、気になる展示内容について調べたり、オリジナルグッズや図録を購入したりすることができます。

学芸調査員 秋田 雄也



写真提供 / 明治大学博物館

開館時間 / 10:00~17:00 (博物館図書室、ミュージアムショップM2は16:30まで)

休館日 / 夏期休業日(8/10~16) ※8月の土・日曜に臨時休館があります。
冬季休業日(12/26~1/7)

博物館図書室、ミュージアムショップM2日曜・祝祭日、
その他大学の定める休日、8月1日~9月19日の土曜日は閉室

入館料 / 無料(特別展は有料の場合があります)

お問合せ / 〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン地階

TEL:03-3296-4448 FAX:03-3296-4365

(日曜・祝祭日、その他大学の定める休日は事務室閉室)

歌川(五雲亭)貞秀画

「肥前崎陽玉浦風景之図」文久2年(部分、左2枚)



歌川(五雲亭)貞秀は、横浜絵などを手掛けたことで知られる浮世絵師で、鳥瞰的な風景画を得意としました。「肥前崎陽玉浦風景之図」の玉浦(瓊ノ浦)というのは、当時の長崎の別称で、長崎の町々や出島が精密に描かれています。海にはさまざまな船が描かれ、当時のにぎやかな様子がうかがえます。絵の中には「舟津町のしるべに宿りて貞秀画」と書かれており、長崎に来て描いたものであること

がわかります。貞秀は、大坂から長崎までの海岸の風景を描いた『海陸道中画譜』(元治元年)の序文で、「大約名所を描んにも親しく実地を踏て見ざれば其真景ハ写しがたかり」と述べています。現地へ行き実見したからこそ、このように細部に至るまでを丹念に描くことができたのでしょう。それ故後に貞秀の絵は、彫師泣かせと言われました。

学芸研究員 野藤 妙

学芸員の眼 — 特別展関連イベント —

当館では、年に2回の特別展を開催し、その特別展関連イベントとして講演会とワークショップを行っています。講演会では、当館学芸員による特別展の解説と、お招きした講師による講演を開催しています。その対象は、学生や一般の方々を中心です。一方、ワークショップは子供向けに開催しており、毎回、担当スタッフが趣向を凝ら

したイベントを行い、楽しんでもらっています。また、特別展の展示もスタッフが子供たちにわかりやすく解説しながら、見学してもらいます。特別展は、展示だけではなく、その他のイベントを関連して行うことで、より多くの方にご来場いただけるとともに、“大学の社会の窓口”としての役割を果たせるよう取り組んでいます。

学芸員 内島 美奈子



ワークショップ「拓本をとろう!」












第18回特別展関連公開講演会



博物館通信

2015年9月から2015年12月までに行った博物館活動や出来事の中からいくつか紹介します。

-  9月18日(金) 博物館実習成果展Ⅶ「ユダヤの信仰と動物」は盛況のうちに終了しました。
-  9月26日(土) せいなんおでかけワークショップ
「世界にひとつだけオリジナル缶バッチをつくろうin原城図書館」を実施しました。
-  10月9日(金) 西南学院大学博物館 × 南島原市 相互貸借特集展示Ⅲ
「有馬氏と2つの居城一日野江城・原城出土遺物から」を当館で開始しました。
2016年1月22日まで開催。
-  10月30日(金) 企画展「江戸・明治の異国人イメージ」は盛況のうちに終了いたしました。
-  11月7日(土) 2015年度秋季特別展「南蛮—NAMBAN—昇華した芸術」を
当館で開始しました。12月12日(土)まで開催。
-  11月18日(水) 西南学院大学博物館 × 國學院大學博物館・大学博物館連携常設事業
相互貸借特集展示Ⅴ「イト・ナの東—いくつもの弥生文化—」を当館で開始しました。
2016年2月15日(月)まで開催。
相互貸借特集展示の関連イベントとして、ミュージアムトークを開催しました。
-  11月24日(火) 2015年度秋季特別展「南蛮—NAMBAN—昇華した芸術」の展示替を行いました。
-  11月28日(土) せいなんこどもワークショップ「拓本をとろう!」を開催しました。
-  12月5日(土) 第18回特別展「南蛮—NAMBAN—昇華した芸術」関連公開講演会を開催しました。



博物館実習成果展Ⅶ



せいなんおでかけワークショップ



南島原市 相互貸借特集展示Ⅲ



企画展「江戸・明治の異国人イメージ」



國學院大學博物館
相互貸借特集展示Ⅴ

サテライト展示

【國學院大學博物館】

相互貸借特集展示Ⅳ
「宗門人別改帳にみる近世社会」

会場／國學院大學博物館
会期／2015年9月6日(日)～12月22日(火)

西南学院大学博物館が所蔵する五つの地域の宗門改帳が、各地の宗門人別改帳を通して、幕府や藩の禁教政策の実態について地域性を含めながら展示されています。



國學院大學博物館 展示風景

【南島原市原城図書館】

産官学連携・原城図書館企画展示Ⅴ
「海外への窓口 KYUSHU・NAGASAKI I
—異国の影響を受けた長崎の文化」

会場／南島原市原城図書館
会期／2015年12月2日(水)～2016年3月24日(木)

「鎖国」政策下、長崎はヨーロッパや中国に向けて開かれた唯一の場所でした。長崎は情報発信地となり、異国の珍しいものや新しい知識を求めて多くの人が長崎を訪れました。

本サテライト企画展では、異文化交流の中心地であった長崎に焦点をあて、江戸時代に刊行された長崎に関する本を展示しています。



原城図書館 展示風景

2015年度秋季特別展

「南蛮-NAMBAN-昇華した芸術」展

会 期 / (前期)2015年11月7日(土)～11月21日(土)
(後期)11月24日(火)～12月12日(土)

時 間 / 午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで) ※日曜休館

会 場 / 西南学院大学博物館特別展室

入 場 料 / 無料

主 催 / 西南学院大学博物館

後 援 / 福岡県・福岡県教育委員会・福岡市・福岡市教育委員会・福岡市文化芸術振興財団



◇開催概要

1549年、フランスシスコ・ザビエルが日本に来航し、キリスト教を伝えました。以降、日本と西欧の交流により、さまざまな情報や文物が日本へ渡来しました。それらは南蛮文化として受容され、日本に文化的な昇華をもたらしました。

異国の珍しいモノや風習は屏風や工芸品のモチーフとして日本で好まれました。他方で日本の漆工芸は宣教師をはじめとする西

欧のひとびとを魅了し、制作された祭具等の漆器が、西欧へと持ち帰られました。国内向け、国外向けに作られた工芸品からは、双方の異国趣味がうかがえます。

本展覧会では、まず日本文化に一画期をもたらした南蛮文化をご紹介します。その後、鎖国体制の確立によって南蛮文化がどのように変わっていったのかについて、あわせて展示します。

◇展示構成

I 萌芽の兆し — 西欧文化の訪れ —

16世紀後半に来日したポルトガルやスペインの宣教師、商人たちは、日本に新しい情報をもたらしました。同時に、それまでほとんど知られていなかった日本の情報を西欧に伝えました。それらの情報の伝播により制作されたさまざまな文物からは、相互の関心の高まりを見ることができます。

II 創出された意匠 — 南蛮美術 —

16世紀から17世紀における東西交流は、南蛮美術を生み出しました。南蛮人やもたらされる珍しい動物、文物は、屏風や工芸品のモチーフとして流行します。その一方で、西欧では日本の漆工芸品がもてはやされ、彼らの好みや生活様式にあわせて調度品として輸出されました。

III 新たな文化への転機 — 鎖国と紅毛文化 —

江戸時代になると、徳川幕府はポルトガル、スペインとの交流を断絶したため、オランダが唯一の西欧の交易国となりました。そのような政策の変化は文化面においても影響を与え、オランダ商館を通じてもたらされた文化や情報が、紅毛文化として受容されていきました。



企画展紹介 現在開催中

「西南から見た西新の記憶」展

会 期 / 2015年12月15日(火)～2016年5月31日(火)

時 間 / 午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで) ※日曜休館

会 場 / 西南学院大学博物館1階廊下・2階講堂

入 場 料 / 無料

2016年、西南学院は創立100周年を迎えます。そこで本企画展では、1世紀にわたって西南が立ってきた西新という地の歴史や学院との関わり—記憶—を振り返り、学院と西新町の今後の在り方を考えます。

西南学院は、1918年の移転以来西新地区を拠点にしていますが、その間、西新は大きな変化を遂げていきました。第1部では、江戸時代後期と昭和期に作られた2枚の古地図を紹介し、西新地区の変遷の様子を俯瞰します。続く第2部では、本学や西新の古写真を通して、西新のかつての姿に迫ります。



行事予定

2015(平成27)年～2016(平成28)年

【特別展／企画展】

11月18日(水)～2016年2月15日(月)

西南学院大学博物館×國學院大學博物館 相互貸借特別展示Ⅴ
「イト・ナの東—いくつかの弥生文化—」
[場所]西南学院大学博物館

11月30日(月)～3月31日(木) 予定

天草キリシタン館サテライト展示
「シナゴードーユダヤの祈りと祭具」
[場所]天草キリシタン館

12月2日(水)～2016年3月24日(木)

西南学院大学博物館×南島原市 原城図書館企画展示Ⅴ
「海外への窓口 KYUSHU・NAGASAKI I—異国の影響を受けた長崎の文化」
[場所]原城図書館

12月15日(火)～2016年5月31日(火)

2015年度企画展
「西南から見た西新の記憶」
[場所]西南学院大学博物館

2016年1月8日(金)～4月23日(土)

西南学院大学博物館×國學院大學博物館 相互貸借特集展示Ⅵ
「異国イメージ—紅毛人から阿蘭陀人へ」
[場所]國學院大學博物館

2016年6月10日(金)～8月5日(金)

2016年度春季特別展・コレクション展Ⅰ
[場所]西南学院大学博物館

【その他】

12月26日(土)～1月5日(火)

休館

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。
なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようようお願い申し上げます。

来館者掲示板

【来館者の言葉】

父が通っていたとの事で来てみました。
(2015年 9月)

「百万人の福音」2015.11月号で紹介されていたので
訪れました。貴重な資料を拝見できて感謝でした。
オルガン演奏による讃美歌も耳に快ち良かったです。
(2015年 10月)

わたしは2009年までこの学校で交換教授でした。
いま再訪問して感激しました。
(2015年 10月)

30年ぶりにこの建物に入りました。懐かしくて涙が出そう
になりました。
自分の子供も、やはりこの西南に行かせたいと思いました。
(2015年 12月)

落葉した西新の街路樹、来館者と共に通り抜けていく
風に冬を感じる毎日です。
12月15日からは企画展「西南から見た西新の記憶」を
開催しています。年末の忙しい時期ではありますが、か
つての西新と現在の西新を比べながら、それぞれに流
れる時間と記憶の中の情景に思いを馳せていただけた
ら幸いです。

学芸調査員 秋田 雄也

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務局
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]

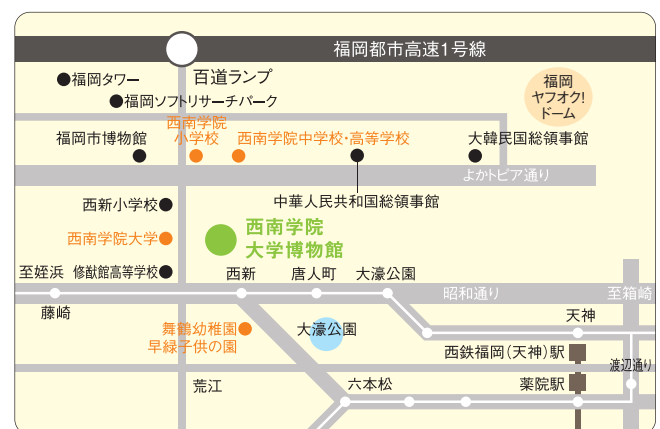
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料



アクセスマップ

ACCESS MAP



地下鉄

福岡空港 → 西新駅下車...約17分
博多駅 → 西新駅下車...約12分
天神 → 西新駅下車...約8分
※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分



バス

博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
天神 → 修猷館前...約20分
※修猷館前バス停から徒歩5分



タクシー

福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分